

# 相模中学校だより 12月号

令和2年12月11日 発行：校長 金子憲勝

早くも12月の中旬になり、今年も残すところ3週間になりました。新型コロナウイルス感染症の影響で様々なことが予定を変更せざるを得ない中、生徒たちは継続して感染症対策をしながら学校生活を送っています。特に、この2学期は2大行事である体育祭と相模祭を行うことができるのか心配していましたが、記憶に残る体育祭と相模祭を作り出してくれました。生徒たちが一生懸命に活動する姿を見て、目頭が熱くなることが何度もありました。

また、部活動についても各部で工夫しながら試合や発表の場を作り、練習の成果を発揮することができています。最近の出来事としては、12月5日(土)には演劇部が2013年以来7年ぶりに県大会に出場し、素晴らしい演技を披露しました。会場は、神奈川県立青少年センターの大ホールでしたので、10月に演技した場所とは広さが違うことによる戸惑いを感じさせないほど、立派に演技を行うことができていました。その結果、大変嬉しいことに「青少年センター館長賞及び県中学校文化連盟会長賞」に選ばれたとの連絡が入りました。

次に、6月の相模中学校だよりに、卒業生から突然学校に『手指用洗淨ジェル』と『マスク』が送られてきたことを紹介しましたが、実は2学期にも別の卒業生から在校生に使って欲しいと『手指用洗淨ジェル』と『マスク』が届きました。このプレゼントは、1学期の時と同じくとても嬉しい出来事で、卒業した後も母校のことを気にしてくれている人が沢山いることに感激しています。

続いて、生徒会役員選挙についてですが、3年生が中心であった学校から徐々にバトンが2年生に移っています。部活動においては、ほとんどの部が3年生は引退し、2年生中心のチームになっています。また、生徒会の役員についても、生徒会長と副会長を決めるための選挙を今週の水曜日に行いました。今年は、感染症対策として体育館に全校生徒を集めて行うのではなく、事前に撮影しておいた画像を流し、それを各教室で見ました。2年生は6人の生徒が、1年生は5人の生徒が立候補し、選挙活動を活発に行い、真剣に相模中学校の将来について語る生徒の姿を見て、頼もしく感じました。私は、20年以上も前に本校の教員だった時、生徒たちと「どのような学校にしたいのか？」について語りあったことが何度もありました。その時のことを懐かしく思い出しながら、生徒会役員選挙時の生徒の言葉を聴いていました。

生徒一人一人が、自分が通う学校のことを考えることは大切なことですので、相模中学校の良き伝統としてこのような生徒会の活動が引き継がれていることを嬉しく思います。次回の相模中学校だよりには、新しい生徒会役員の紹介を載せるつもりですので、楽しみにお待ちください。



上の写真の左から2枚は、陸上部の県大会での力走の様子です。引き続いて右の2枚は、演劇部の県大会の立て看板と練習中の演技の様子です。(演劇部の県大会は、撮影が禁止だったために当日の劇の写真はありません。)



上の写真は、生徒会役員選挙に関するもので、左から昇降口に貼り出された選挙ポスター、朝の選挙運動の様子、帰りの会の遊説の様子、選挙演説の映像を見ている生徒の様子です。